

第2回先進地視察報告（加東市小中一貫教育・義務教育学校）

- 1 視察先 加東市立東条学園小中学校（小中一貫教育推進 義務教育学校）
 【令和3年4月～12月迄・・・施設分離型】
 東条学園 前期課程（旧東条東小学校）・・・旧東条西小学校との統合
 東条学園 後期課程（旧東条中学校）
 【令和4年1月～・・・施設一体型校舎】
 東条学園（義務教育学校）

- 2 学校規模（児童生徒数は、令和3年5月データ）

旧学校名	東条学園	学 級 数	児童・生徒数	合計
東 条中学校	後期課程	普通 6c1・特支 2c1	174人	174人
東条東小学校	前期課程	普通 12c1・特支 2c1	352人	352人
東条西小学校				

- 3 視察時期 令和3年9月6日（月）

- 4 視察先 加東市教育委員会 こども未来部 小中一貫教育推進室

- 5 研修項目 ① 加東市における学校規模・学校配置適正化の考え方
 ② 東条学園が目指す教育
 ③ 教職員の意識啓発、連携・協働体制構築
 ④ 特色ある教育課程・指導方法
 ⑤ 施設整備における充実
 ⑥ 東条学園運営協議会設置により目指す効果
 ⑦ その他

- 6 他地域の展望

- ※ 今後、中学校区毎に併設型小学校・中学校に移行予定（施設一体型）
 ※ 全市的に「小中一貫教育」導入・推進

地域名	学校名	学 級 数	児童生徒数	合計
社地域	社 中	普通 12c1・特支 2c1	426人	426人
	社 小	普通 18c1・特支 4c1	569人	
	福田小	普通 6c1・特支 2c1	118人	
	米田小	普通 4c1・特支 2c1	47人	
	三草小	普通 6c1・特支 2c1	74人	
	鴨川小	普通 3c1・特支 0c1	33人	

地域名	学校名	学 級 数	児童生徒数	合計
滝野地域	滝野中	普通 9c1・特支 2c1	339	672人
	滝野東小	普通 17c1・特支 5c1	505	
	滝野南小	普通 6c1・特支 2c1	167	

3 加東市における小中一貫教育グランドデザイン（全体像）

1	基本理念	人間力の育成 ～豊かな学びが、新しい自分と地域を育むまち 加東～
2	基本方針	未来を切り拓く子どもを育む小中一貫教育の推進 ～学びの連続性を大切にした教育の充実～
3	めざす子ども像	○ 自ら学ぶ子 ○ 自他を大切にする子 ○ ねばり強い子 ○ 個性豊かな子 ○ 自分を活かす子 ○ たくましい子
4	3つの「つながる」	① 学びがつながる ・ 9年間を通したカリキュラム ・ 学習指導の充実 ・ 切れ目のない一貫した支援 ② ひとがつながる ・ 異学年交流 ③ 地域とつながる ・ コミュニティースクール ・ ふるさと学習「かとう学」

4 参加委員アンケート回答より（回答者5名分）

No	質問内容	回答
Q1	「学びの系統性・指導の一貫性・育ちの連続性」を重視する小中一貫教育について興味関心が持てたか。	①持てた (3) ②どちらかといえば持てた (2) ③あまり持てなかった ④持てなかった
Q2	小中一貫教育を推進する一つの形として、義務教育学校という制度について理解できましたか。	①できた (3) ②ある程度できた (2) ③あまりできなかった ④できなかった
Q3	近隣市においても導入が拡大している「小中一貫教育」は、これからの学校における教育システムとしてどう感じられましたか。	①大いに期待できる (3) ②どちらかといえば期待できる (1) ③あまり期待できない ④期待できない ⑤わからない (1)
Q4	加東市立東条学園の学校運営・教育活動について、関心を持たれた取組や教育活動は。	①あった (5) ②無かった
Q5	関心を持たれた取組や教育活動の具体例	○『加東の教育』としての軸が一本あり、それを踏襲した形で地区ごとの教育スタイルを設定 ○地域ごとに、独自の小中一貫教育の進め方を検討（「小中一貫教育推進協議会」を設置） ○小中一貫教育の学年区分 4・3・2年制導入（発達段階に応じた学年区分）各区分において明確な目標設定 ○学校統合による児童生徒数規模の決定（東条地域 500 人規模、社地域・滝野地域 1000 人規模） ○通学バスの設定（通学距離 4 km 前後の判断）

	<ul style="list-style-type: none"> ○ 4・3・2年制を意識した教室配置 ○ 余裕ある教室確保により、少人数授業にも対応 ○ 小中教職員にとって円滑なコミュニケーションが取りやすい、施設一体型施設 ○ 1000人規模を超える社地域や滝野地域は、併設型小学校・中学校型に編成 (施設一体型ではあるが、前期課程・後期課程それぞれに校長配置) ○ 様々な先進地を視察し、適正化の具体化について研修することが必要 ○ コミュニティースクール設置
Q6	<p>先進地視察を通して持たれた意見・感想 等</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 加東市では、10年先まで学年2c1の確保が可能と想定される。西脇市は、スタート時点から学年1c1。施設一体型の学校環境実現が難しいとなれば、こうした課題解決をどのように図るのか。 (地域から学校を無くすことへの判断の難しさは理解できるが・・・) ○ 加東市は、公共施設適正配置が出発点。 ○ 西脇市は、住民の意見を聞いて学校の適正規模を検討。 ○ 子どもは、一定規模の児童生徒数の中で育つことの大切さを再確認し、課題を一つひとつ解決し、よりよいものにしていくことが重要である。 ○ 小中一貫教育のメリットについては理解できた。 小中の先生間のコミュニケーション活性化 前期課程時より、中学校卒業時点の姿を想定したカリキュラム編成が可能 多面的な視点で、義務教育9年間の子どもの姿・変容が見とれること 教員が専門性を活かした授業ができること 施設一体型による推進が効果的(小中教員の円滑な協働体制構築が可能) ○ 学年区分の判断の違い。メリット・デメリット ○ 通学バスの検討が重要 ○ バス通学利用児童生徒の声や、小中一貫教育校で働く先生方の声はどうか。 等 ○ 財政的支援の規模(教育予算に占める割合)